



設備管理クラウドサービス

Blitz GROW

Blitz GROWは下水道施設・設備管理に特化したシステムを
低価格で提供する新しいクラウドサービスです



業務改善 (DX) を
強力にサポート!

計画的な運営を支援

業務の流れと情報の流れを一体的に整理した
上で、現状の課題を洗い出し、台帳データベ
ースを軸とした「着実で効率的な仕組みづくり」
をお手伝いします。

蓄積されたデータをもとに
設備の状態を把握・診断



様々なシチュエーションに応じた活用をご提案



台帳の
電子化



アセット
マネジメント



ストック
マネジメント



業務の
効率化



BCPの策定



維持管理



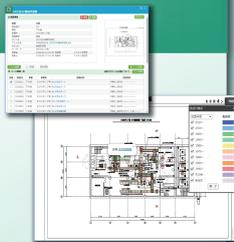
ノウハウの
継承

Blitz GROWサポート お手持ちの図面やデータに合わせた様々なサポートをご用意しています

- ✓ デジタルデータをお持ちでないお客さまへのデータ初期整備、運用開始後の施設設備データ更新
- ✓ お客さま提供更新データによるBlitz GROWデータ更新(お客さま所有のシステムとBlitz GROWの連携運用をされる場合)
- ✓ 竣工図等のスキャン/登録、台帳図PDFの作成/登録、紙台帳図の印刷、製本

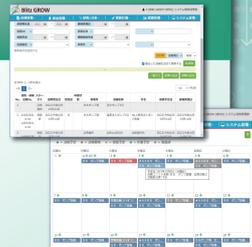
図面管理

- データ化された最新の現況図を登録し、設備と関連付けを行うことで、現場のどこにどのような設備があるか素早く確認できます。
- 画像ファイルだけでなく、CAD ファイルも登録が可能です。



保安全管理

- 点検から修繕までの記録をデータベースに蓄積することで、現場での技術継承や健全度の判定に生かれます。
- 点検や修繕を実施した際の承認・決済をシステム上で行うことができます。



診断分析

- 健全度のデータをシステムに蓄積し、更新・長寿命化シナリオを簡単に作成できます。
- 作成されたシナリオに基づいたLCCの算定がシステム上で行えます。



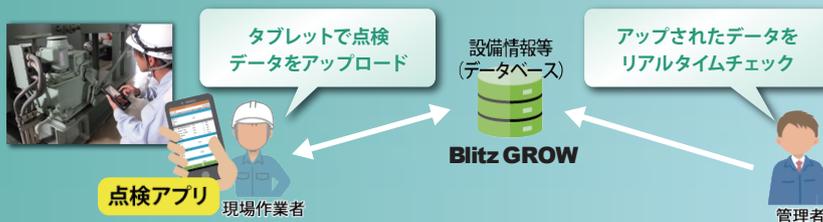
更新計画

- 法定耐用年数、標準耐用年数、目標耐用年数等ケース別シナリオで改築需要を算定し、結果を可視化できます。
- 改築更新の平準化シナリオ等も作成できます。



さらに 点検アプリ で点検をもっとカンタンに!

- ✓ 点検票の大量印刷が不要なので出動がラクラク!
- ✓ 電波不要でコンクリート施設内でも使えるから取扱いがラクラク!
- ✓ 撮った現場写真や動画がその場で整理されるから報告がラクラク!



主な実績

受注年度	発注者	導入の背景
2022 (令和4) 年度	北海道 R市	設備台帳システムは、平成 30 年度に下水道ストックマネジメント基本計画策定時にスタンドアロン型で構築したが、運転維持管理受託者による情報の閲覧や点検、故障・修繕データの入力作業に制限があることから、事業管理者がよりストックマネジメントの実践に取り組むために、使い勝手の良いクラウド型のシステム (Blitz GROW) を導入した。
2021 (令和3) 年度	大阪府 S市	S市では、平成 26 年度にアセットマネジメントシステムを導入した。運用を進める中、各機能の改善ニーズの高まりに加え、ハード面・ソフト面でのサポートも十分得られない状態での運用となる見込みから、システムのライフサイクルコストの抑制を図り、柔軟性及び拡張性が高く、可用性及び運用保守性に優れ、下水道業務の更なる効率化及び行政サービスの向上を図ることを目的として、クラウド方式のアセットマネジメント支援システム (Blitz GROW) を導入した。
2020 (令和2) 年度	岐阜県 A町	下水道ストックマネジメント計画策定に合わせ、設備台帳及び健全度評価結果のデータベースを構築した。そして、運転管理業者との情報共有を図りつつ、適切な維持管理の支援とデータの蓄積を支援するため、Blitz GROW を導入した。
2019 (令和元) 年度	B県 下水道事務所	導入から 10 年以上経過した既存の設備台帳システムの再構築を行い、施設・設備管理と資産管理を適切に行うとともに、出先等の関係機関と一体的なストックマネジメントの実践を円滑に行うため、下水道ストックマネジメント支援制度を活用し、確実かつ持続的な実施を支援する情報管理システムとしてBlitz GROW を導入した。
2018 (平成30) 年度	兵庫県 C市	導入から 10 年が経過した既存の下水道台帳システム (設備) の再構築を行い、平成 27 年に改正された下水道法に準拠した調査及び日常の維持管理等を円滑に運用するため、ストックマネジメント機能が搭載されている Blitz GROW を導入した。※既存データはBlitz GROWへ移行。
2017 (平成29) 年度	大分県 D市	既存のシステムがクライアント・サーバ型で、各処理場・ポンプ場のデータベースが独立していたため、毎年1箇所にとまとめる統合作業が発生していた。データベースを一元管理し、リアルタイム更新することで、情報共有と技術の継承を図るため、更には長寿命化計画、ストックマネジメント計画策定と維持管理の効率化のため、Blitz GROW を導入した。